



徳成寺

寺比かわら版

第186号 2022年6月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

皆さんは、生涯に渡って師と呼べる方がいらっしゃいますか。

私にも、この世界に導いて下さった師がいます。師がこの世を去り、

先月三回忌のお参りをして来ました。師はこんな言葉を遺しています。

「あなたは 決して 女の一例なのではない あなたは 決して 男の

一例なのではない あんたは 決して 人間の一例なのではない 現代に

身を置く 現在ただ今の そのあなたこそが すべての 人のいのちを

新たに掘り起こす 無二の人なんだ」と。この言葉の意味がよく分からなくても、

卑屈になったり、いじけてしまいそうになる自分を、こんなふうな大きな心で

優しく励まして下さる師でした。今度は、私がこのバトンを受け継いでいく番

だと誓いを新たにしました。動乱の時世に流されず、大きな心を見失わず

前進して参ります。今月もかわら版をお届け致します。

発行責任者

住職

大山健児

坊守

大山なほみ



大山超世の耳を澄ませば

GW明けの5/11 慶讃法要お待ち受け大会がレクザムホールで開催されました。来年、親鸞聖人のお誕生 850 年の法要が開催される事に先立って各地域で盛り上げる行事です。

全国的に珍しい節談説教、記念講演、門首執刀の帰敬式と内容盛り沢山でした。一方でその週の頭、5/8にはコロナウィルス感染者数が香川県で過去最多を更新したニュースを耳にして、昨年執り行ったお披露目会の時の事を思い出しました。現在流行中のオミクロン株よりも激しい症状が出る事、ワクチンも普及していなかったこともあり、感染者数は前年同月比で約 1/10 でしたが、もっと閉塞感があったように記憶しております。元通りの生活というのはまだまだ先かもしませんが、1年前と比べると少しずつ前や上を見られるような状況になっています。何も変わっていないようで私達の世界はちょっとずつ変わっていている事を教えられた気がしました。写真は大会で挨拶をする門主の大谷暢裕氏です。ブラジルで物理学博士をされていたという異色の経歴の持ち主です。

